

## 第2回近鉄郡山駅周辺まちづくりワークショップ



平成27年11月26日に「第2回近鉄郡山駅周辺まちづくりワークショップ」を開催しました。今回も各種団体の代表や公募いただきましたみなさまなど総勢26名の方にご参加いただき、「将来のまちの姿を実現するために必要なこと」について活発な意見交換が行われました。また前回に引き続き、近畿大学総合社会学部の久教授にはアドバイザーとして参加いただきました。その様子をご報告させていただきます。

### ○テーブル討議

第2回ワークショップでは、「将来のまちの姿を実現するために必要なことを考えよう」をテーマに、「駅・駅周辺」「道路（東西軸等）」「買い物、日常サービス」「地域資源を活かす」の4つの視点から、将来のあり方について討議しました。前回と同様に3班に分かれて意見を出し合い、地図に書きこんでまとめました。



### ○発表・結果の概要 ～ご意見のいくつかを紹介します～

#### 駅・駅周辺をどうしたい？

- ・ 駅前には、“人が集まる機能”と“交通を処理する機能”が必要
- ・ 駅、病院、市役所、商業施設のスムーズな連絡が必要（バリアフリー化）
- ・ 自動車で安心して送迎できるようなスペースが必要

#### 安全で通しやすい道路（東西軸など）のあり方は？

- ・ 矢田町通りの幅を広げることは考えられないが、東西の通行の確保は必要（矢田筋通りで確保するか、代替の道を確保するか）
- ・ 危険な場所に信号を設置したり、速度を制限するなどして車を制御したり、電線の地中化などで道幅を広げたりする工夫を

#### 買い物・日常サービスを充実させるには？

- ・ 今は学生が遊ぶ場所がないので、ご飯を食べたり、おしゃべりできるお店があればよい
- ・ たくさんの方が集まって、パーティーや会食ができる場所があるとよい
- ・ 駅の近くに子どもを預けたり、本を返却したりできる施設があると、住み・働きやすくなる
- ・ 民家等を活かした宿泊施設があるとよい
- ・ 観光客には散策のルート上に、昼食やコーヒーが飲める店があるとよい など

#### 豊かな資源を活かすには？

- ・ 駐車場とセットでコミュニティサイクルがあると、地域内を周遊しやすくなる
- ・ おみやげ物などがそろう道の駅・アンテナショップのような施設があるとよい
- ・ バスパーク（駐車場）を複数つくって、バスを降りて地域内を歩くような仕組みをつくってはどうか
- ・ 箱本十三町の由来・歴史を感じられるような仕掛け（茶町にはお茶屋さんを誘致 など）
- ・ お城の眺めによいところに観光客が集える施設や、宿泊施設の確保も必要 など



### ○講評

『学生も多いし、観光客の方も来られている。まちの中を楽しめるようになっていないし、地域も潤わない。橿原市の今井町や富田林市の伝統的建造物群保存地区を生かしたまちづくりも時間がかかっている。そんな現状を改善するヒントがワークショップの中でたくさん出た。大きなことは行政じゃないと出来ないかもしれませんが、身近なことは、みなさんでもできることがあるはず。これからも一緒に今後の郡山のまちづくりについて考えていきましょう。』

（近畿大学総合社会学部久教授）

